

第一三共 メマリーDTC  
第二弾「ノート」 撮影台本 大岡俊彦

登場人物

母(71) 第一弾の祖母と同一、表記違い。

息子(45) 第一弾の父。同。

医師(40)

○近所の医院、廊下

待合の椅子に座りこみ、嫌がっている

母(71)。

その息子(45)、必死になだめている。

息子 「すぐ終わるから。ね？ ここはじめて来た所じゃないよ？ いつも来るじゃない。大丈夫」

母 「…(不安、疑心暗鬼)」

そこへ医師(40)が通りかかる。

医師 「ごめんなさいお待たせして。(母に)藤田さん、はじめましょうか」

突然背すじがシヤンとなり、よそゆきの顔になる母。

息子 「…？」

○同、診察室

医師 「どうです？ 最近は？」

(電子)カルテをチェックしている。

息子、出したノートを見ながら。

息子 「そうですねえ。外出は喜びます」

母 「そうそう」

息子 「？」

医師、先を続けてと、息子に目で合図。

息子 「料理も好きで」

母 「そうなのよ」

息子 「でも着替えはキライで…」

母 「(とぼける)それはないかなー」

息子 「(母に)俺が聞かれてんの！」

母 「私の話でしょう？」

息子、医師 「∴(それは分るんだ、と目を合わせる)」

息子、医師にノートを渡す。

前回来院日からの、家での様子の記録が書いてある(約二週間分)。

息子 「廊下では嫌がってたのに、先生の前だとシャンとするんですよ」

医師 「ははは。そういう人もいますよ」

突然、深々とお辞儀をする母。

母 「はじめまして。よろしく願いします」

息子、

医師 「∴(驚いて、顔を見合わせる)」

だがそれはしようがないか。これから長く付き合う上で、これぐらいでは驚いていられないなあ、とお互いの顔を見る息子、医師。

再び、ノートに目をやる医師。

ノートのアップに、ナレがかぶる。

ナレ 「人に調子があるように、認知症にも波があります。今日は穏やかでも、明日は荒れ模様になったり。お医者さんに会わない時の記録を、ノートに書き留めておいて下さい。お医者さんが症状をより正確に判断する、貴重な記録になるのです」

窓の外の空を眺めている母。

母 「今日はいいい天気だねえ」

つられて、窓の外を見る息子と医師。

ナレ 「認知症の新しい治療が広がっています。相談ノートをご活用ください。第一三共」